

修正内容一覧

物質ID	物質名	CAS番号	項目	修正前						修正後						備考
				分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類根拠・問題点	
H26-B-100 / R-045	メチルエチルケトン	78-93-3	特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分1(神経系)	健康有害性	危険	H372: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害(神経系)	P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	(略) 一方、実験動物ではラットに本物質蒸気を5,000 ppm (14.7 mg/L: 1 ppm= 2.91 mg/m <sup>3</sup> (ACGIH (7th, 2001)))で、90日間吸入ばく露したが、体重増加抑制、肝臓の重量増加(生体適応反応と考えられた)以外に、一般毒性学的影響、神経毒性影響ともにみられていない(SIDS (2011)、EHC 143 (1993)、IRIS TR (2003)、環境省リスク評価第6巻(2008))。この他、神経毒性の有無を検討したラットでの複数の吸入ばく露試験において、いずれも神経毒性は陰性の結果を示し(SIDS (2011))、本物質はn-ヘキサンのようにジケトン代謝物(直接的な神経毒性物質)を生成しないため、神経毒性を生じないと考察されている(SIDS (2011))。以上、ヒトで本物質の単独又は他の溶剤との複合反復ばく露により、中枢及び末梢神経系への有害性影響が生じる懸念は依然として持続していると考えられたため、区分1(神経系)に分類した。	区分1(神経系)	健康有害性	危険	H372: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害(神経系)	P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	(略) 一方、実験動物ではラットに本物質蒸気を5,000 ppm (14.7 mg/L: 1 ppm= 2.91 mg/m <sup>3</sup> (ACGIH (7th, 2001)))で、90日間吸入ばく露したが、体重増加抑制、肝臓の重量増加(生体適応反応と考えられた)以外に、一般毒性学的影響、神経毒性影響ともにみられていない(SIDS (2011)、EHC 143 (1993)、IRIS TR (2003)、環境省リスク評価第6巻(2008))。この他、神経毒性の有無を検討したラットでの複数の吸入ばく露試験において、いずれも神経毒性は陰性の結果を示し(SIDS (2011))、本物質はn-ヘキサンのようにジケトン代謝物(直接的な神経毒性物質)を生成しないため、神経毒性を生じないと考察されている(SIDS (2011))。以上、ヒトで本物質の単独又は他の溶剤との複合反復ばく露により、中枢及び末梢神経系への有害性影響が生じる懸念は依然として持続していると考えられたため、区分1(神経系)に分類した。	2018.6修正
H26-B-142 / R-088	クロム酸ストロンチウム	7789-06-2	生殖細胞変異原性	分類できない	健康有害性	警告	H341: 遺伝性疾患のおそれの疑い	P308+P313: 暴露又は暴露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。 P201: 使用前に取扱説明書入手すること。 P202: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 P405: 施錠して保管すること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	データ不足のため分類できない。すなわち、in vivoのデータはない。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の姉妹染色分体交換試験で陽性である(IARC 49 (1990))。本物質は水に難溶性Cr (VI)である。	分類できない	-	-	-	-	データ不足のため分類できない。すなわち、in vivoのデータはない。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の姉妹染色分体交換試験で陽性である(IARC 49 (1990))。本物質は水に難溶性Cr (VI)である。	H28.5.17修正
- / R-097	2,4-トルエンジアミン	95-80-7	水生環境有害性(長期間)	区分1	環境	-	H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P391: 漏出物を回収すること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(BODによる分解度:0%(既存点検, 1977))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC=0.52mg/L(環境省生態影響試験, 2001、環境省リスク評価第6巻, 2008、NITE 初期リスク評価書, 2008)であることから、区分2となる。 慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(BODによる分解度:0%(既存点検, 1977))、魚類(マダイ)の96時間LC50=0.73mg/L(EU-RAR, 2008)であることから、区分1となる。 以上の結果を比較し、区分1とした。	区分1	環境	警告	H410: 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P391: 漏出物を回収すること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(BODによる分解度:0%(既存点検, 1977))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC=0.52mg/L(環境省生態影響試験, 2001、環境省リスク評価第6巻, 2008、NITE 初期リスク評価書, 2008)であることから、区分2となる。 慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(BODによる分解度:0%(既存点検, 1977))、魚類(マダイ)の96時間LC50=0.73mg/L(EU-RAR, 2008)であることから、区分1となる。 以上の結果を比較し、区分1とした。	H28.5.17修正